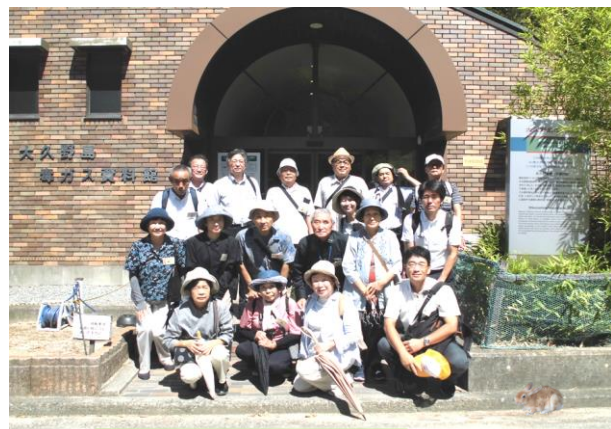


秋晴れのなか、竹原市忠海町の沖合いにある大久野島（毒ガス資料館他）へ研修視察に行きました。

大久野島は広島県竹原市忠海町の沖合3kmに位置し、数戸の農家が耕作を続ける島でした。しかし、昭和2年に毒ガス製造を目的として島全体が陸軍の管理下となり、昭和4年には毒ガスの製造が始まり、昭和20年まで続けられていました。現在、大久野島は休暇村として開発され、国民の保養地となり、昔を偲ばせるものは、砲台跡・発電場・毒ガス貯蔵庫など数少なくなっています。この島で毒ガスを製造した過程で、多くの犠牲者を出すに至ったことや、痛ましい事実を今に伝えるため、関係者の方から寄せられた当時の資料を展示し、毒ガス製造の悲惨さを人々に伝えています。



「毒ガス資料館」「発電場」などの場所へ、徒歩で巡りながら説明を受けました。資料館近くには、毒ガス工場で働き被害を受けた人たちの「慰霊碑」が建てられています。



参加者の感想

- 毒ガスの話は何も知識がなかったので、大久野島で毒ガスを作っていて犠牲者が出たことに腹立たしさを覚えました。戦争の悲惨さ、平和の尊さ、生命の重さをここで痛感しました。
- 日本で毒ガスが戦争に使用されていたこと、また日本で作られていたことを、恥ずかしながら知りませんでした。原爆の被害に遭われた方は救済され、毒ガスの被害者は救済されていないことなど、まだまだ知らない事実がたくさんあるということを今回もたくさん勉強させていただきました。
- 大久野島と言えば「うさぎの島」としか認識がなかったので「毒ガス製造」を目的とした島であったことは衝撃でした。そして何も知らされず、そこで働いた多くの人々が毒に蝕まれ苦しみながら亡くなっていかれたこと、現在も苦しまれていらっしゃることに心が痛みました。
- このような歴史があって今日があることを忘れてはいけないと痛感しました。また、この仕事で亡くなられた1000人以上の方や、今も障がいを持って苦しんでいる方に哀悼の意と安らかな生活を祈りたいと思います。
- 国際法や国同士の協定は、戦争が激化するとすぐに破られるものなのだと感じています。毒ガスの使用・製造によって軍人はもとより民間人を傷付け、80年前の戦争であっても今でも様々な影響が続いていることを知り、恐ろしさを感じています。日本が製造・使用したことを風化させないことが肝心で、大久野島資料館、史跡の存在は大切だと思いました。
- 工場で多くの犠牲者が出ているにも関わらず、なかったことのようにされていることに怒りや悲しみを感じました。大久野島の歴史を少しでも多くの人を知ることが今後の平和を守るためには必要ではないかと思いました。

多津美中学校区のテーマ

人権を大切にしよう 明るい地域をつくりましょう



令和6年度 総会開催

6月9日(日)

多津美中学校区人権啓発キャラクター「こころ」

今年度の重点課題

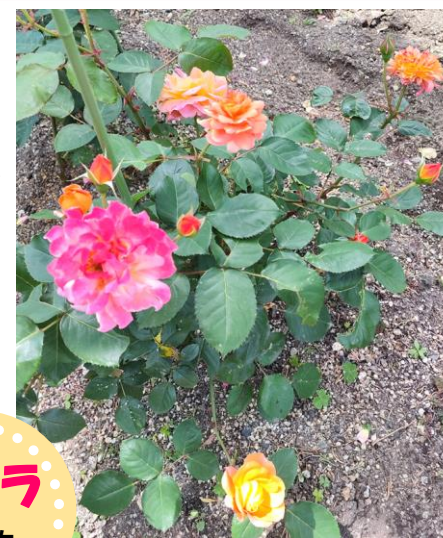
あたたかく思いやりのある人の輪
つなごう・ひろげよう



多津美公民館にて、令和6年度多津美中学校区人権学習推進委員会総会を開催し、今年度の事業計画案や予算案など、全てが承認されました。今年度もテーマ及び重点課題のもと、地域の皆様と共に、ふれあい・交流活動等さまざまな活動を実施してまいります。



昨年、ホロコースト記念館(昨年の研修視察先)でいただいた「アンネのバラ」が、きれいな花を咲かせました。公民館に来られた際にはぜひご覧ください。(右の写真は5月中旬に撮影)



アンネのバラ
が咲きました



「アンネの日記」に深い感銘を受けたベルギーの園芸家デルフォルヘさんが、アンネを偲んで「アンネ・フランクの形見」と名付けた新種のバラを、アンネの父オットーさんへ贈りました。豊かなアンネの表情のように赤からオレンジ、そしてピンクへと色変化します。

「画材バンク」について

多津美公民館の玄関ホールに、このようなBOXがあります。これは、障がいがある方たちが通う福祉事業所での作品づくりに使うため、自宅で使わなくなった絵の具や筆、マジック、クレヨンなど、寄付していただいたものを入れるためのものです。皆さんのまわりで使わなくなった画材がありましたら、こちらに入れていただくと嬉しいです。



いつもたくさん
ご協力いただきまして、
ありがとうございます。